

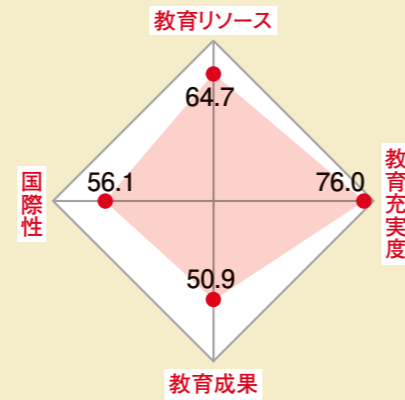


学生数/2925人 学部/文教育、理、生活科学
大学院/人間文化創成科学
●THE世界大学ランキング2019/1001+位
●同アジア大学ランキング2019/301-350位

THE世界大学ランキング日本版2019の結果

※()内:前年度結果

分野	スコア	順位	参考データ
総合	64.2 (63.8)	25 (32)位	外国人学生比率/4.6%
教育リソース	64.7 (63.7)	29 (=40)位	日本人学生の留学比率/11.3%
教育充実度	76.0 (81.2)	30 (55)位	外国語で行われている講座比率/4.3%
教育成果	50.9 (45.1)	=81 (124)位	海外大学との交流協定校数/69校
国際性	56.1 (59.9)	65 (=53)位	



教育の充実に向けた取り組み例

学生調査の主な項目	取り組み例
教員と学生の交流	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 専門科目の演習(ゼミ)では常時、発表・討論が行われている ▶ コア(教養)科目では「授業・学習支援システム」を利用。課題の提出、教員からのフィードバックをWebサイト上で随時行う
協働学習の機会	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 文理融合リベラルアーツ演習では、学期末に合同発表会を実施 ▶ キャリア教育科目では、グループ単位のテーマ学習を実施。発表会を開き、相互批評をする
批判的思考力の養成支援	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 卒業研究・卒業論文を全学生に課し、中間発表会・最終発表会を実施。質疑やコメントを通じて、成果の確認と掘り下げを行う
文理融合型の学び (学んだことを相互に結びつけて課題解決)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 2008年度より「文理融合リベラルアーツ」を導入。文理を横断する5つのテーマに沿って多様な分野の科目群を配置。学際的・実践的な力を養成
学修内容の実社会への応用支援	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 学生が自分でインターン先を選ぶ科目「インターンシップ」の実施 ▶ 文部科学省「次世代アントレプレナー育成事業」(2017~2021年度)では大学コンソーシアムを形成し、起業家育成に取り組む

注目! 協働学習と国・世代を越えた交流を促進する2施設を整備

お茶の水女子大学は先ごろ2つの施設を整備した。2018年にリニューアルオープンさせた附属図書館は、学生や教員の要望をもとに構想。さまざまな形の学習に使えるグローバルラーニングコモンズやグループ学習室のミニコモンズ、アカデミック・ラーニングスペースなど、学習スペースを充実させた。今では1日約1000人が利用する。

2019年に新築した「国際交流留学生プラザ」には留学生の交流拠点となる国際教育センターや、一般の人も利用できるカフェ、幼小中高大の同窓会施設などが設置されており、国際交流、地域貢献、世代間交流の3つの目的を持つ集いの場となっている。

◀ 附属図書館グローバルラーニングコモンズ



▶ 国際交流留学生プラザ(隈研吾設計)



Case Study

お茶の水女子大学

自らが描くリーダー像の実現を支援

お茶の水女子大学では、文理融合型の教養教育の導入と学生の声を基にした教育改善により、女性リーダーの育成を推進している。その取り組みについて話を聞いた。



理事・副学長 三浦 徹

みうらとる ●1975年東京大学教養学部卒業。出版社勤務を経て、1987年東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専攻課程博士課程退学。1999年お茶の水女子大学文教育学部教授。2007年理事・副学長。2010年放送大学客員教授。2011年お茶の水女子大学文教育学部部長を経て、2017年より現職。

女性のキャリアを支えるリベラルアーツ教育

本学は創設以来、「グローバル女性リーダーの育成」をミッションに掲げています。リーダーにはさまざまな形があり、学生が描く理想のリーダー像も人によって異なります。そのため、教養と専門課程に独自の教育システムを導入し、一人ひとりが理想とするリーダー像に向けて成長できるように教育改革を行ってきました。

教養教育では、2008年度に「21世紀型文理融合リベラルアーツ」を導入しました。これは、現代世界を読み解く鍵となる5つのテーマについて、文理双方からアプローチすることで、領域横断的な広い視野と、社会変化に柔軟に対応できる判断力を養うものです。演習や実験、実習を通して、発信・交渉力も高めていきます。

こうした学際的・実践的な力は、専門科目を学ぶうえで土台となるものであり、同時に出産や子育てといったライフイベントによって分断されることが多い女性のキャリア形成を支える力にもなります。つまり、教養教育を通して学生は、生涯にわたって自在に(リベラル)使える技(アーツ)を手に入れるのです。

専門教育では、2011年度に「複数プログラム選択履修制度」を導入しました。これは、主専攻を軸に、自分の関心や進路に合わせて最大3つまで学修プログラムを選択できる制度です。自分らしい専門力を身に付け、希望進路の実現をめざすことが目的です。文系学生の約4割が、主副の「二刀流」の学びに取り組んでいます。これらに、自分の将来像を明確にするキャリア教育、文化を越えてコミュニケーションする力を養

学生の声を基に教育改善を推進

成するグローバル教育を加えた4つが、本学のグローバル女性リーダー育成の柱です。

本学では、学生の声を基に教育改善を行い、改革の実質化を図っています。というのも、いくら改革を行っても、それが学生にとって意味あるものでなければ、教育効果は期待できないからです。

その一環として、大学執行部と学生とが直接対話する学生懇談会を毎年7月に開催しています。学生からは、「英語での専門教育の充実」「カフェがほしい」など、教務や学生支援・施設などに関する具体的な要望や質問が寄せられます。その一つひとつに回答し、ウェブ上に公開しています。定期的に実施する授業評価アン

ケートなどからも、教育に対する学生のニーズや不満を把握しています。調査結果は部局長の会議などで共有し、データを基に改善策を検討します。「リベラルアーツ演習」のテーマをより自由に設定できるようにしたのは、学生の声を反映した教育改善の一例です。

また、教育改革の成果を社会に還元することも大切です。本学は本年、文部科学省の「数理及びデータサイエンスに係る教育強化」協力校に選定されました。なるべく教式を使わず、図解やシミュレーションによってデータサイエンスの知識を身に付けるプログラムの普及を図り、この分野にさらに女性が進出し、社会的平等が拡大しないように考えます。これからの女性のライフスタイルに合った教育の研究開発を行い、ロールモデルとなる多様な女性リーダーを育成していきます。

* 生命と環境、色・音・香、生活世界の安全保障、ことばと世界、ジェンダー